

おわりに

視聴学習の形態として、“定時視聴”が受け入れられることが、遠隔学習システムであるビデオ学習センターが成り立つ条件であることを、この報告書の冒頭に指摘したが、すでに明かなように、今回の放送大学広島地区ビデオ学習センター第1期モニターへのアンケート調査によれば、中間時点と15回の視聴終了後のいずれにおいても、明確に“定時視聴”に賛成の意志が示された。その理由は、視聴日時が決まっている方が学習の動機づけやペースメーカーになり、また集中して試聴できるというものである。日時の制約を受けず自由な時間に試聴できる“自由視聴”への希望が当然多数を占めるであろうと予想した多くの関係者にとって、“うれしい驚き”であった。

何分仮住まいであり、決して十分とは言えない学習環境を考慮し、また視聴学習への出席状況においても、初期の“定時視聴”が回を重ねるに従って、実際にはやむを得ず一部“自由視聴”へ移行しながらの意志表示であることを考えると、これは視聴形態として“定時視聴”が基本的には是認されることを示すものであり、このことによって、ビデオ学習センターの在り方が明らかになり、それとともに、ビデオ学習センターの将来の展望が一挙に開かれたといっても過言ではないと考えられる。

学習センターの設置場所としては、少し遠くても大学や短大など学問的な環境に富むところが希望され、ショッピングセンターやスーパー、デパートなどは否定された。学問（生涯学習）に対する刺激や自己規制を自らに課す厳しさがうかがえるが、ビデオ学習センターの今後の展開を考える上で、大きな示唆を与える。

アンケートの自由記述に表われた現在の放送大学広島地区ビデオ学習センターの設備や運営方法に対する種々の意見については、開設日（曜日）、開設時間の拡充やブースの改善あるいは控室の設置など、その多くは、正規に学生を受け入れる時には解決することがらである。その中で、学習センターがもっと近くにあれば、という遠隔地のモニターの切実な希望にどう答えたらよいのかは、ビデオ学習センターに望まれる基本的な機能を考えるとともに、図書館や公民館など公共施設等の利用や、最近の新しい技術による双方向遠隔スクーリングなどをも含めた、真剣な検討が必要と考えられる。

《付記》

本研究の実施に際しては、放送大学地方教育課に、基礎調査表と学習に関する調査表のモニターへの配布、回収について協力をお願いした。研究全般については、放送教育開発センター研究協力課連携協力第二係の全面的な協力のもとに進めた。